





丹鶴叢書 己酉帙

明治三十六年十月十九日 謹奉

從五位下行土佐守源朝臣忠央輯刻

信實朝臣家集撰

春歌

新らは物影もくぐりあよみほへふたつむ  
けざまくまくちぬくやえきのまきへとよせうけふらし  
一條入道太政大臣家家よくさすすのせきへ  
よみはへふ

新らは物影もくぐりあよみほへふたつむ  
けざまくまくちぬくやえきのまきへとよせうけふらし  
一條入道太政大臣家家よくさすすのせきへ  
よみはへふ

寛元三年八月右大弁入道法華經の料席  
のうへんをくわへよまへらせし

よゑる

鸞のうきまなよあふのまもととあむちのあ  
前孫大納言レシノ小百人下トモセシヨ  
まかくもなやさきまがれもほやがくくはてを  
入道二品親王人よアラミ欲よまつせざす  
おしよゆき乃うもひうもひ  
まくさぬをの梅ようくみとの本作ひちくみの本作  
経乃うもひの百事よ

新後撰春上

信實

夫ハツカシの御ノキモキセキヤズモムニ持セ  
持改歎人ノモ百人下トモセシモキモヒル  
コトヲモトモ  
ものにまよフカシモヌル被をヒタリヒタリのなきなま  
前孫大納言家ノモムキモシテヒトモマサニ  
モハシヒトモのこゝ

志もましめいすむ月の里えくらすよの月をもてる  
おが 五十度すかごのうすまよ仰へと  
あともえやがまくへんまきのまなびてかくるる御  
經のまうー乃有事よ

玉音ハとみゆきもあるねとかまく小よしるあまのゆ  
九條も内大臣もよそう合併ふあつて  
うるる

徳拾遺春上

を徳拾

あくまぬたむづもひづよやくおをすくわすり称  
家よ五社を合ふ人よそくめはく帰鳳

信実

をの國をいはすまもあくねといふやうのうる下の

西園寺ニヤシテヨリモサセキはよ

徳拾遺春下

貞永元年もす御改家ふく景の万葉よもれ

もてももみすア人のもく構あひのひととがやほくま

すすきのせとけひのなよのせよつまくちる構の承

ももみくとくもくとく

新勅撰春下たゞ一  
ひきくとくもくとくのまくとくもくとくをのほすとくとく

九條も内大臣家よくよ國生瓦をあくへとく

新勅撰雜一たゞい

のまわせまじめへふくはひのまわる  
くもくとやまのまくともまのあはりすむまな

夏う

右大年入道まよのサクシテ

よまわらけ

卯年の暮ねとくよはくやうはくよかく月のまかくも  
まく年大納言をくわめま欲くはよよせら

もくくよくほくよく

ちくわくよくよくのむくよくのむくよくのむくよくをく  
同家三ヤリふかくよくほくよくをく  
おこよくよくのほくよくすくよくをく  
経のよくよく

時鳥の音をもつて  
おまへ百萬

五月まよよのかせあはくもとわくもてのひる舟へ

新後撰更  
の新後

建保元年正月  
みのよとくあると  
かのとせん

法性も入道圓白教たる所の事時人より有

西隱寺サニヨ

新しく原題がついたよ、

王葉雜一  
ゆくの道もあらぬはまや  
みのひよし、まよひつ  
同歌のまよ夏因

まよのすゝめ

さのいはよかとてやうじゆくはるべ

ほのじ  
みをよ

卷之三

九條す内大臣家より海老のほる

アリのまゝやうのも、沼のよもぎをもあつても

燒拾遺夏

持致數詩百首之餘內序

むかわくせのよ舟は  
かくよの國のまへ

新之助歌より夏月

三

風よりおもひやう乃きもふるは居なみとすみだり  
九條内大臣家御くらよ夏夕  
タカヒコのとをそまゆる三田とまつあて名のせしむ

秋す

貞永元年秋新勅家正多影百多千をやま

秋

新勅撰秋上

よる波の涼くもあとの安城の社のうけ秋の月りせ  
前猿大納言家五十多ふたふとも、秋を詔せ  
れどもなにもいそてたまうみのう七日の事とやうん  
寛元ニキ九月法性寺歎すれ三十六歳  
がうちとて

新勅無事実

よもせ候る秋風  
とよくと

天のうきはのいみかねてわるがちおもやいきもと  
れのうくねなりよ

信実

新勅撰雜一

なむしもとめのまつよつてきの葉の葉みだりとて秋風

新勅撰秋上  
新政殿吉百多の閑居のまつよ  
かくもとたのむまみのものほりよもすみこも入ませ

新勅撰雜一

九條内大臣家正多写居の音

信実

新勅撰秋上

まゆけとく松ノ音のいじらふどもせぬをと音と果ぬ

建保五年内裏傳の令

三新後

新勅

度新勅

新後撰秋上

秋の風のとめのまつよ

ハ新後

秋の風のとめのまつよ

草花もやいとて

いのまよはおのづかうととたどりもんとあてはめむ

法性寺歎世音よ

秋色のまきもさくもむかひのまくへる麻ふあらわす

捨政殿御正月よ因家鹿

さうがくの枝みとかく小山のまきとよしやちあらわす

経のまくへれ百首よ

山のむらのまくへ山のまきとよしやちあらわす

影の花影のまくへ山のまきとよし

鳥なきまくへ務なむかゆのまくへ山のまきとよし

おなじ影のまくへ山のまきとよし

信実

物とみゆきとよしやせのむくいやおのまくへま

法性寺歎世音よ

なまくはよまくはまくはまくのまくへ山のまくへ

九條内大臣家あるくゆするのむ

ねをみゆきとよしやせのまくへまくのまくへまくへ

経のまくへれ百首よ

まくへ月のまくへまくのまくへのまくへおのまくへ

影の花影のまくへ月のまくへ月

まくへまくへのまくへゆのまくへ枕のまくへ月とけい

寛元三月八月十五日おまかのまくへ月

綱千載秋上

続千載秋上

ははち歎世

蒙古文

饶古浦月を

大正元年  
秋月  
同上

あはれのまゝに思ひてゐる

國學大典

秋中撰後燒

えもひはまくらす月とみる

1

やあらまゐなのとゆくもとうまの月をさうる宿がた  
すれどぬまみすよ月をさうる宿がた

卷之三

新後撰秋上

杜風之子曰少卿

繞古今神

卷之三

新ノアラ  
タリモテ  
ウル

のせすてう角よもすもすよかよみほのほよたのゆ

持改殿侍百千よりみ乃とて

嘉のくをうたす人をもすもすの海の津よもよ

經のきくーの百千より

きのとさうのくわづまつねすもくやうとなす

村のうみやよ

新勅撰  
秋下  
たけし

じとくは村風きむきといたぢくやまくすくわく  
承久元年内裏を今す持衣をとく  
うやふ衣やうきかすぬらんきぬくちくほくのゆ  
持改殿侍百千より持衣をとく

信実

うのうおぬはまなう衣うつおぬ衣やうえあくん  
大みに位入道くよすきめらきくまく

持衣

まくのとくの里をもくの里をもく人をくわくや衣うつ  
貞永元年す持改殿侍百千よりみち  
むくまくはみきよみくわくわくえくくじて深きハ  
持改殿侍百千よりみくわく  
うのうおぬの持衣くわくうをもく紅葉くよけア  
九條内大臣家ほくよかくわく  
まくちの生の生のもすもよたかとの本のくわく

燒後秋の音のやう

燒後秋下

貞の承元まはすお施政とくあま御アリテキシモナラ  
モシムカタニカタニカタニカタニカタニカタニカタニカタニ  
は性寺殿也

ナシヨヒトモ里ミ室ニモ月のかつアカシル松乃子姫  
アヤチ初之家ミナミニキミムモリヤマシキシテ  
庭ノカタニモヒサシテアリモヤマシキシテアリモヤマシキシテ

ナカツル村ノ道ノモリのまん底のほちみをみまよも

冬歌

燒後撰冬

二品親王みやまよしのしをのちと  
キミシムヒリオカタニヤ神無月ハサハサササモツ  
ナシ夏大納言家ミヤマヨリメナキアリモツ  
モヤマシキモヤマシキモヤマシキモヤマシキモヤマシキモ  
経ノシテーの百々  
モヤマシキモヤマシキモヤマシキモヤマシキモヤマシキモ  
新六帖色ナヨ神々  
すみよーのホラミ

মুক্তি পাইতে আবশ্যিক হইয়াছে।

経の料金乃直之

まかのまゝ、おのづかのまゝ、おのづかのまゝ

影上原  
新井了徳  
著

さうおおやかちあつたまへとくわくわく

建保五年内至衣七  
月より今よどゆ  
新拾遺冬

著の御もうつろひのまゝの如ふるやまへ

新勅撰今  
西漢書

建平四年夏  
王氏之子也

卷之二

(

紅葉子  
秋風子

卷之三

みちくさのよなつこかくわくもよ

たまへて通のくさよ

のあはれのうき  
おのじやくさくあめう

まくらぬ大納言家承十又二歳

神なまひのまきのまくらのまくらのまくらのまくら

經言

おまくをまくのむる都つのかのまくのまくよけと  
ちゆくゆくまくにまくたまくはいあよう  
西園寺のふるよ

徳後撰冬

下村のゆくみれのまくまくのまくまくとくゆく  
法性の入道教たちのほくまく乃西園寺  
をくのそ

山のゆくまくのまくひぬむくひぬむくひぬむく  
前鳥教卿今よううううう

口くまのそよやくたえめんことをぬくづる匂を

建保の年内裏七三月う今よゑあす

信実

田子のあまのす御すうつもすのゆづきよしよしゆ  
徳拾遺冬

かまくらうお今よ

家あくらあくらやくら野をまくほりまくまくのそく

七十そくよくわくふ

玉簾のうくのすきまくのゆくまくのゆくまく

住のゆくまく

漆のゆくは風をまくがくまくとく鳥あく

経のゆくまくのゆくまく

塙風のゆくやまくまくなまくまくまくまく

家よすみけー河合のすほのすく千鳥

まよひつたのがちのいとくわく

西園寺さん

なまづの月あらわす

千鳥のよしとよみ

さくらの花やおもむか井のいとくわく

高ち

絆のまよひとくわく

なまづの月あらわす  
人やの神といふゆきよためぬこのたまごの下  
まよひかくわくやくわくや櫻やあらわす  
てくはよのやあらわすの庭のよちあらは  
枕ゆき神うきのまよひとくわくあらわす  
やうとあらわすあらわすうきとくわくあらは  
まよひとくわくとくわくよの庭のやあらわす  
まよひとくわくとくわくよの庭のやあらわす

新後拾  
老後拾  
本  
新後拾遺  
老後拾遺  
本  
まをほの百二十九

ちの言もす、すまやかにやれのめうとくや人のよす  
アやめりともかくといふあはがくぬきの道を  
レモるめゐことうけどうれどもよきやくらへ  
前後大納言家もすまうよせまわ

ま

おのめくらむよろきよて居つゆいもとまつわ

住すのホラミ

れよなまくはくまくまくまくまくまくまくまくまく

接改敷行可まくまくまくまくまくまくまくまく

立まくまく務のトリトリたまつねよも社へまくまく

信実

おおくまよのるゑ  
まくめまとまき神よまくても向くまくまくまく  
新く花影よあひまく

棹うよまくまくまくまくまくまくまくまくまく

院千載恋五

まのねあくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

人一とめ

立まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

今くらる

下あるのくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

時のうみへよよなまくあひいとほんこさむ

やまくめる

くもくわくわくすまくまくまくまくまくまくまく

くくく

五社を合ふて

かはははははははははははははははははははははは

建保五年内裏教令

新勒撰三新勒五

同清教令

新後撰五

新勒撰

新勒 権大納言忠信  
お合へたる小旗お

新勒撰

新勒

新勒撰

新勒

新勒撰

新勒

新勒撰

新勒

我處へ入等の候と申ひ候事あるやうも  
新後撰恋四  
よ斗やんと申ひ候事あるやうもたのもくあま  
繞古今 小堀吉

わくと申ひあまやまもん家つやまのまきあま  
徳古洞院持政家  
百々小三

京極中納言家よくちのひくまつ恋

おぬ人のほくまとくよもくとて枕のあら小井やまん

三條の侍はう位百三十たゆる

ほらうかうたそのよのあようまくじいわぬあつまづれ  
徳古今恋五  
貞ふみまき方よあひくあまぬ

西室をちすく

信良

同恋の申小

同恋三  
徳子載恋四

さくめの秋よけ已け繞古  
たまえ位入道くよつむぎのちのゑ  
あひくはきなはのつまよくやもくちあくらん  
六條す内大臣すまくせきくがくせきくは

くまれなるかく

さくまよたえものあもぬよのつまくせきくはり

家長胡くよよもよとけよ月つきよ月つきのゑ  
くまよとちのゑの月つきとやまと源みなやもん

すすりれども

岸うと舟ふねてなまくよるほくと名なくとまく

かとうのす今よ

立ゆるもひなまきのす今あすましにハおよし  
家よあ社か今とくよすめはくよあい  
くあくぬゑ

渡舟里にすまくワタセ岸もえやふまん

友大納言家あすまよいよよきてたあらこい

さーもこくあくまくまのうたうれしきてちひのうしゆる

因家月なみのくよよゑ

はやもはよかうかうかのうたうかのうたうかのう

信実

雜

影くつ影よあつ

ふき行よまうひくうあたてやまつまきに又行

よひ

げくままでまよまくらのがゆすすとくひのひと

あまのまく

きのじくうはまくらがゆすすとくひのひと

てふひ

やまくらがゆすすとくひのひと

くも

かくまのやうかくま  
いよのまもと、ちゆやねな  
くも

卷之三

みゆせはまおもたかのくわのふたややのからくらむ

卷之三

まちかく様にいきなが  
り、まことにもぢやが

卷之三

まゝ、よもやまの事とたゞ、血色あ  
ふるやうのが、まことに、  
わざわざむづかしきのちのこなへ  
あつたまゝのまゝ、

۲۷۰

元氣はまだあつたぬ少年の如きも見ゆぬ

ぬ  
主

卷之三

古いやうな年になると、やまの山のぬらりかな

卷之三

おまかせのうへ  
おまかせのうへ

۳

素のまゝかくふくわく風の御

九

床の上に枕を置くのが  
おなじい

卷之三

七  
や  
よ  
う  
じ  
ん  
き  
く  
ま  
た  
か  
の  
こ  
と  
か  
く  
た

月の江戸へもりてやうさんもりて  
経の江戸への方へ

卷之三

徳後 摂政  
とちくわうのる  
徳後撰 雜下

なまくねよく、やうりて  
おのれのまことんにのせ  
おはせひよかたくのまこと  
おはせひよかたくのまこと

續拾述懷詩中

中雜遺拾燒

もくちやうたのまなみにまつわるは  
ぬかづてはるのゆゑにまつわるは

おほきよえやむくもぬ枝も重もる浦のわざ  
すみすみのせくつしまアたひ  
彦のぬき同さむとがててもぬくかさぬ宿つな

仲  
寧

釋迦善逝

おまえさうやねおまえじよおとくさんせん  
おまえのせんよたひ  
おまえのあくびおひなおまえおまえ  
おまえおまえおまえ

中雜撰後繞

月令

同秋中  
星もれやもものなまくあむるるむ

同林中

丹鳥叢書

かく

卷之三

続拾 洞院翁政一百  
三の二

貞水多矣  
歌三百首

続古洞院指政百  
三十

道をとおゆきよしも月、くふてまわり翁がのい人かな  
約なつむすものあはれんと、こひやまくちくとやくさん  
せうりどよしのうもくまくしやくまくしてほねの枕あくねばよ

りふのみまひ百首よし家  
新後撰雜上たい

はるかに之の爲めの月のあたやまをあらわす  
百羽の鳥が飛んでゐる

八情亦々々とくよみむけ  
続古今雜中之續古  
ほんとくよみむけ  
うとうて同上  
おは歎声之同上  
山のまつりあはれのじゆあよひたまぬはのほきを身

同一百首了述懷

我もすすりもやまめひなじてそりつまくとせ

前夜大納戸家十五日

やがなる日もあらわすおのまえのまえ

入道ニ品親王の御うちまみのま

産みよのとうもるもあらわのとくもくもねのとく

形く詠歌のうにうみ

すくみかくみくみかくみかくみかくみかくみ

八條院かくくはくはくはくはくはくはく

ほくほくほく

やみのうちもとがくのちよもむかしあもがく

信

新勅撰雜三

貞永えきくひのひやのほくほくほくほくほく

みよとひをちゆるととるたひをかくせんせん

せんせんせんせんせんせんせんせんせん

すいとひをのひのひのひのひのひのひのひのひの

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

えくのひをのひのひのひのひのひのひのひのひの

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

せんせんせんせんせんせんせんせんせんせん

名所述懐

ねなづてまくせをじやすすねはおほそのれなまく

寅治九年すす核政殿よく詩を合ひて

江上恥至

子まほのやうひのまほまほ入江アテテぬ沖つ向流

望よる氣

なやうの聖中のかくはあそく  
さくともなまむかくのな

此一帖

信実朝臣集

依父卿命以家本令

書写被附属于藤原光芳者也後年

依所望加奥書畢

享保二十一年二月三日

左中將為村

丹鶴叢書目錄

一 普惠本中丹鶴書院

丁未帙

正中御飾記一卷

內宮御神寶記一卷

右二部原本丹鶴書院藏

後水尾院當時年中行事二卷

右原本村田春野藏

春記三卷 同裏文書

右原本中山脩前守信守朝臣藏

九條右大臣集一卷

御堂開白集一卷

右二部原本丹鶴書院藏

藤原家經朝臣集一卷

右原本仲田顯忠藏

和泉式部續集二卷

右原本井上文雄藏

源重之女集一卷

小侍從集一卷

殷富門院大輔集一卷

右三部原本仲田顯忠藏

風介津連奈幾物語一卷

右原本新見伊賀守正路朝臣藏

已上總十二部十五卷或今或合為十一

本

戊申快

釋奠供物圖一卷

諸陵雜事注文一卷

雜筆要集一卷

右三部原本村田春野藏

春記十一卷

右原本松平越中守定猷朝臣藏

室町殿春日詣記一卷

右原本村田春野藏

捺弓藤割次第一卷

諸鞍日記一卷

九條家車圖一卷

西園寺家車圖一卷

右四部原本田口千穎藏

萬代和歌集二十卷

前參議教長卿集六卷

濱松中納言物語四卷

乙寺緣起一卷

右四部原本丹鶴書院藏

已上總十三部五十卷為三十九本

亡酉帙

侍中群要十卷

右原本松岡明義藏

信實朝臣集一卷

草根集十五卷

右二部原本丹鶴書院藏

繪師草紙一卷

右原本小田切直蔵同人縮写之

蒙古襲来繪詞三卷

右原本高島千春蔵同人縮写之  
已上總五部三十卷為二十四本

庚戌帙

嗣刺



# 丹鶴城藏絆

賣弘所

京都三条通升屋町

大阪心齋橋通安堂寺町

三都書肆

江戸芝神明前岡田屋嘉七

同鍛冶橋五郎兵衛町

中屋徳兵衛

出雲寺文次郎秋田屋太右衛門

